

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	久慈市	
施 設 名	久慈市文化会館（アンバーホール）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	4,208	(千円)
公演事業	4,208	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>久慈市社会教育行政中期計画に基づき、多くの市民が芸術文化に親しめる環境の整備を図り、平成 11 年 2 月の開館からの累計来館者数は令和元年度末で 2,357,790 人となり、地域に親しまれている。</p> <p>岩手県北に位置し、久慈広域圏の芸術文化の拠点、シンボルとして、また、開館当初から岩手県内で初めて芸術監督を置いた会館として、県庁所在地盛岡まで 2 時間以上かかり、生の芸術鑑賞機会が乏しい市民に対して、優れた芸術文化の鑑賞の機会を提供する役割を担っている。</p> <p>芸術監督兼館長の永峰高志氏は現在、国立音楽大学教授を務めており、久慈市文化会館の開館前のプレイベントに出演いただくなど、長年の交流を経て、平成 22 年から当職に就任いただいている。</p> <p>久慈市の音楽環境を 20 年以上支えてきた永峰芸術監督監修により、自身の経験と人脈を生かした『久慈・ベートーヴェン連戦演奏会 Vol. 3』公演を開催し、指揮茂木大輔氏によるプレトークや公開リハーサルなどクラシックが身近な存在となるよう取組んだ。</p> <p>公演毎に徴した来場者アンケートによると、市外の来場者割合はコンサートによりばらつきがあり、アンバーホールのファンとして、ジャンル(嗜好)を超えた集客を目指したが、厳しい結果となった。</p> <p>『オルガン&ブラスコンサート』公演は台風 19 号により、被災者や復旧作業従事者への配慮から宣伝活動を自粛したため、入場者数が目標を大幅に下回り、『音楽の絵本』の中止を併せて、助成 4 事業の入場者数の目標 2,400 人に対し、実績が 1,089 人（45.4%）となり、残念な結果であった。</p> <p>0 歳から楽しめるコンサートとして『音楽の絵本トイ・ボックス』を企画し、特別支援学校への招待を行うなど年齢や障害の有無にとらわれずにご来場いただく準備を行い、チケットの販売も好調であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため、急遽公演を中止とし、チケットの払い戻しを行った。</p> <p>予算の執行について予算額 13,154 千円に対し決算額 11,126 千円（-15.4%）となったが、これは、公演の中止に伴うキャンセル料、宣伝費等支出があったものの、出演者の移動交通費等の不用額が生じたためである。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>久慈市の地理的条件により、都市部との文化格差が生じざるを得ないなか、久慈市文化会館は芸術監督を置き、より質の高い音楽を鑑賞する機会を提供してきた。</p> <p>久慈市の歳出予算 20,133,000 千円のうち文化会館費 157,542 千円（維持管理費含む）で割合が 0.78%、盛岡市の歳出予算 110,530,000 千円うち文化会館関係費 672,588 千円で割合 0.608%となっており、久慈市は文化芸術への予算措置について、自助努力をしていることを示している。</p> <p>久慈市は、アーティストが多く在住する都市部から離れており、移動等にかかる経費の割増し負担などが生じるため、助成を受けることで、複数の公演を開催することができ、都市部との文化格差を埋めることができた。</p> <p>隣県の八戸市は、音響の優れたコンサートホールがないため、あえて久慈市のコンサートを選んで来場くださる方もあり、当該助成の波及効果は高く、北東北エリアの生きがいのある文化的な暮らしの一助となっている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

指標

※中止した『音楽の絵本 トイ・ボックス』を除いた3公演の来場者アンケートの実績で評価する。

○終演後のアンケート回収率平均 55%以上

平成31年度公演のアンケート回収率について平均55%となるよう、終演後のアンケート回収を呼び掛けた。

回収率

『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』57%

『オルガン&ブラスコンサート』66%

『マジックアワーコンサート』45%

で、3公演の平均が56.0%となり、目標を達成した。

アンケートは事業の企画運営の指針となるため、回収率の目標が達成できたことは評価できる。

○アンケートのうち「とてもよかった」「よかった」の割合が90%以上

満足度

『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』89%

『オルガン&ブラスコンサート』78%

『マジックアワーコンサート』83%

で、3公演の平均が83.3%となり、目標を下回った。

『オルガン&ブラスコンサート』は台風の影響で集客が伸びず、コンサートの内容の良さとギャップから、集客について言及する回答が多く寄せられた。

○市外からの来場者30%以上となるよう周知に取り組む

『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』31%

『オルガン&ブラスコンサート』17%

『マジックアワーコンサート』8%

で、3公演の平均が18.6%となり、大幅に目標を下回った。

エンタテインメント性の高い公演は、市外からの来場者が増える傾向にあり、親子連れに人気がある『音楽の絵本』公演は市外プレイガイドの販売チケットを追加するほどであったが中止となった影響が大きい。

市外の来場者は、地域への経済効果も期待でき、人口減少の中で集客を維持するために推進していく必要があるが、アンケート結果から、出演者の知名度やプログラムの訴求力が重要であることがわかった。

来場者はコンサートの質は当然であるが、感動を共有したいと感じており、集客の重要性を見直し、企画運営の基としていく必要がある。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

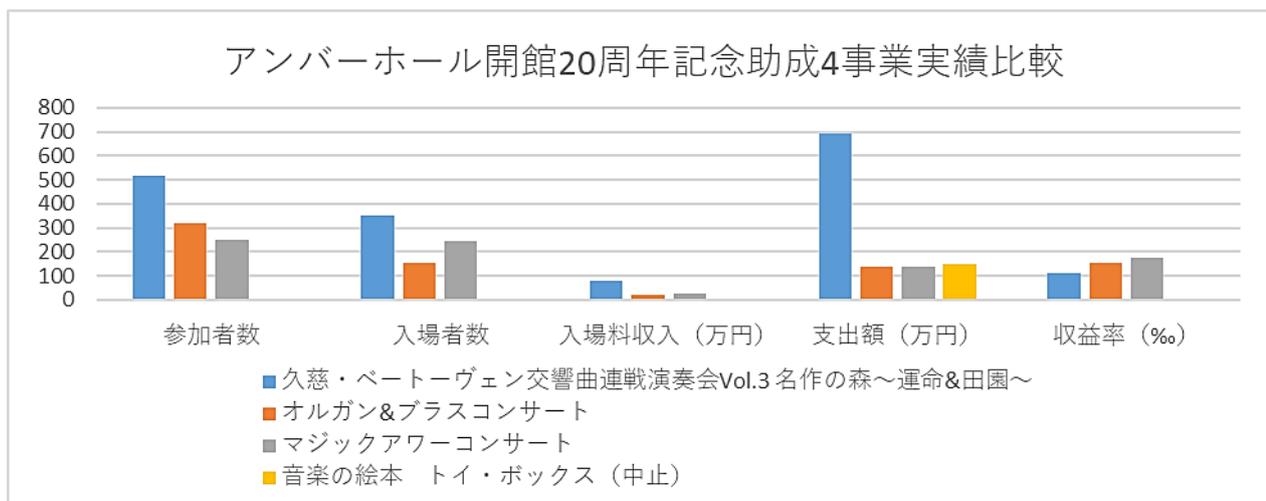
事業期間について、『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』、『マジックアワーコンサート』の2公演は、日程及び出演者に変更はなく計画通りに進んだ。

『オルガン&ブラスコンサート』については、公演の監修をいただいた田宮堅二氏の提案により、オルガン（絹村光代氏）を組み入れたプログラムを加えたが、当該経費は助成対象外経費として久慈市の支出とした。

『音楽の絵本 トイ・ボックス』は、準備は計画通りであったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月27日に公演の中止を判断し、判断に伴う調整及び事務を年度末まで行った。

事業費について、予算額 13,150,000 円に対し決算額 11,125,603 円 (-15.4%) となり、『音楽の絵本 トイ・ボックス』の中止判断が早かったため、出演者の移動交通費等不要になった経費分であり、予算の適正な管理に努めた。

事業ごとの比較について、下記グラフのとおり



台風と感染症による不測の事態が生じたため、事業の実績を単純な比較で評価することは困難であるが、クラシックコンサートは収益率が低くなりやすく、効率性を高めるためには入場者数の増加が不可欠であり、鑑賞意欲を喚起するための対策を講じる必要がある。

収益性は低いながら、すべての公演でアウトリーチなどの普及啓発事業や楽器演奏者への実技指導などの人材育成事業を実施することにより参加者を増やし、居住する地域にかかわらず等しく文化芸術を享受する環境を整備することによる広義の効率性を高めるよう努めた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

音の響きの良さは「残響時間」で数値化されることが多いが、久慈市文化会館は残響可変装置を備え、大ホールの残響時間は世界最高の響きを求めて建てられた東京のサントリーホールと同じ「2.1秒」となっている。

アンバーホールの音響の良さは、『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』でのオーケストラ演奏、『オルガン&ブラスコンサート』でのクラシックオルガンとブラスの競演、『マジックアワーコンサート』での声楽、それぞれのプログラムの魅力を引き立て、クラシック音楽の多様性を伝えることができた。

アンケート結果から、八戸市からの来場者は市外の方の平均 46%を占めて、管内の方を上回っており、ベートーヴェン交響曲連戦演奏会やクラシックオルガンを楽しみに久慈市までコンサートへ足を運んでいたのは、プログラムへの評価とアンバーホールの音響にあると考えられ、助成によりホールの良さを発揮することができた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』では、茂木大輔氏によるプレトークや山形交響楽団による楽器体験コーナー、公開リハーサルなど地域住民と演奏者が身近にふれあう機会となり、演奏曲の解説映像により、曲の理解が深まったとの評価をいただいた。

『オルガン&ブラスコンサート』の出演者による、認定こども園へのアウトリーチや、楽器演奏者への金管クリニックの実施など、鑑賞者から実演家まで幅広い人材育成を行うことができた。

『マジックアワーコンサート』の総合演出をいただいた田村洋貴氏には、母校久慈高校音楽部の合唱指導を行っていただき、高校生が地元出身のプロの声楽家から指導を受ける希望に満ちた体験を与えることができた。当該公演に併せて、出身地域の市民センターが地域活性化事業の一環として応援ツアーを企画し地域住民が団体で鑑賞するなど、地域の絆を結ぶ事業としての効果も生み出すことができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

久慈市文化会館は市の直営により事業の企画運営及び施設の維持管理を行っている。

文化活動の総合拠点として様々なジャンルの公演や、個性を育むための文化体験事業の推進に力を注ぐなど、市民の文化活動を支え芸術文化の拠点としての役割を果たしている。

文化会館に芸術監督を置き、事業の企画運営について助言をいただくことにより、直営館の課題である担当職員の異動等による影響を受けにくく、継続して国内外からトップアーティストを招聘し、質の高い公演を開催している。

文化会館での公演は芸術監督の企画した事業を「久慈市文化会館」の主催、その他の自主事業を「久慈市教育員会」の主催として、教養性が高い公演からエンタテインメント性を備えた公演まで多様性のあるプログラムとなるよう自主事業の編成に努めている。

なお、多様な公演を開催するための財源として、助成金の交付申請等による資金調達に努め、他館とのネットワークにより、巡回公演に組み入れていただくなど、開催経費等の効率化に努め、会館運営にかかる持続性を高めている。

〈平成 31 年度助成金採択実績〉

助成事業名	募集元	応募公演（事業）名	採否
劇場・音楽堂機能強化推進事業（公演事業）	日本芸術文化振興会	①『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』 ②『オルガン&ブラスコンサート』 ③『マジックアワーコンサート』 ④『音楽の絵本 トイ・ボックス』	採択
コミュニティ助成事業（地域の芸術環境づくり助成事業）	自治総合センター	『久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 名作の森～運命&田園～』	採択
劇場・音楽堂機能強化推進事業（劇場音楽堂等間ネットワーク強化事業）	日本芸術文化振興会	オフィス300「私の恋人」	制作会社等（採択）

教育機関とは、コンサートへの招待やアウトリーチ、楽器等の実技指導などの人材育成事業を通じて連携を図り事業効果の向上に努めており、久慈中学校吹奏楽部が東京で開催された日本管楽合奏コンテストで最優秀賞を獲得するなどの成果を上げている。

アンバーホール友の会の設置運営を行っており、会員に毎月発行する会報等を通じてタイムリーな情報提供や、「アナと雪の女王Ⅱ」及び「星屑の町」の映画会を共催し、芸術鑑賞愛好者による互助組織を超えて、多様な芸術鑑賞機会を提供する一助となっている。